

小項目 No. 26 施設・設備の整備・運営

大項目	IV. その他主務省令で定める業務運営に関する重要事項
中項目	2. 施設・設備の整備・運営
小項目	No. 26 施設・設備の整備・運営
中期計画	業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備を行い、効果的かつ効率的な運営に努める。
年度計画	業務の目的・内容に適切に対応するため長期的視野に立った施設・設備の整備を行い、効果的かつ効率的な運営に努める。平成 25 年度においても、引き続き、防災等の研修や各種活動の充実を通じて、良好な研修環境や機能の確保を図る。

【業務実績】

指標：長期的視野に立った適切な施設・設備の整備と効果的・効率的運営

日本語国際センター及び関西国際センターの施設・設備の整備・運営については、事務所管理に関する内部規程に則り、日常の業務の円滑な遂行のために必要な環境の保全、秩序の維持及び安全確保に努めた。特に平成 25 年度は以下の取組みを行った。

1. 施設・設備の整備の実施状況

日常の施設・設備の点検、及び平成 24 年度に実施した建物診断による施設・設備の経年変化の状況を踏まえ、平成 25 年度には両センターにおいて、以下の修繕等を行った。

(1) 日本語国際センター

- ① 受変電設備等更新工事（前年度に引き続き実施。2013 年 10 月に終了）
- ② 給水給湯配管設備等工事（2014 年 7 月末に終了予定）
- ③ ホールカーペットの一部を貼り換え
- ④ 宿泊棟ランドリー室換気扇改修工事
- ⑤ 多目的トイレの修繕等
- ⑥ 耐用年数を超えた消防ホースの更新等
- ⑦ 管理棟屋上の防水調査

(2) 関西国際センター

- ① 温水ボイラー更新工事
- ② 熱源機備品修理、取替え工事
- ③ 機械室給湯配管修理、取替え工事
- ④ 消火栓、自動火災報知設備、ガス漏れ警報設備等取替え工事
- ⑤ 照明監視盤液晶パネル取替え工事
- ⑥ 空調機廻り調節計他交換修理工事
- ⑦ 中央監視装置部品交換修理工事

2. 今期中期目標期間中の保守・改修等の予定

平成 24 年度に両センターにおいて建物診断を実施し、今後修繕等が必要となると思われる施設・設備の把握に努めた。その診断結果を踏まえ、日本語国際センターでは、平成 26 年度も平成 25 年度に引き続き給水給湯配管設備等更新工事を実施する予定。関西国際センターでは、平成 25 年度に温水ボイラー更新工事を実施し、平成 26 年度以降、熱源機の更新、外部ドアの改修等を順次実施していくことを検討している。

3. 防災訓練の実施

日本語国際センターにおいては、通年にわたり防災訓練を実施し合計約 250 名が参加したが、特に 2014 年 2 月に、夜間に地震ならびにその後の火災発生を想定した避難訓練を行い、スタッフ・研修参加者約 70 名が参加した。訓練を通して通報・初期消火・避難誘導の手順等を確認した。

関西国際センターにおいては、2013 年 12 月に地震ならびに津波を想定した避難訓練を行い、スタッフ・研修生約 140 名が参加した。訓練を通して避難経路・手順や防災設備の位置・使い方等を確認した。

4. 保有施設の運営の効率化の状況

(1) 管理運営経費

(単位：千円)

管理運営経費	平成 24 年度	平成 25 年度
日本語国際センター	215,267	260,252
うち、修繕費	45,576	107,388
関西国際センター	217,365	229,133
うち、修繕費	30,836	29,286

※ 両センターとも、規模が比較的大きな修繕工事を行った等の理由により、経費が増加した。

(2) 効率化の努力の内容

日本語国際センターにおいては、入札実施によるコピー機保守代の削減により、▲2,039 千円の経費削減を実現した。

関西国際センターにおいては、光電話の導入、コンピュータネットワーク回線の業者変更などにより通信運搬費を▲1,982 千円削減した。なお、市場化テストによる民間競争入札導入前の平成 23 年度と比較して施設管理・運營業務委託費を年間▲29,318 千円削減している。

5. 保有施設の活用の状況

(1) 宿泊施設稼働率

両センターの宿泊施設稼働率については、「21 世紀東アジア青少年大交流計画」(J E N E S Y S プログラム)の受託研修が平成 24 年度に終了したことを主な要因として、以下のとおりとなった。

日本語国際センターでは、国別研修(中国大学)参加者が当初予定数の半数以下になったこと等もあり、第 2 期中期計画期間の平均値と比較して、6.7%減(工事補正を考慮すれば 4.4%減)となった。

関西国際センターでは、主催研修事業において一人当たりの単価を縮減し、招へい人数を拡大するなどした結果、同中期計画期間中の平均値と同率となった。

両附属機関の宿泊施設稼働率

	25年度	第2期平均	【参考】 24年度
日本語国際センター	56.4% (60.0%)	63.1% (64.4%)	63.9%
関西国際センター	67.1%	66.7% (67.1%)	69.8%

※（ ）内は、工事による稼働不可室数を除いた場合

(2) 図書館利用者数

・日本語国際センター

日本語教育専門図書館として、図書資料 41,834 冊、視聴覚資料 7,107 点、雑誌・紀要 613 タイトル、ニューズレター121 タイトル、電子資料 957 点、マイクロ資料 427 点、グラフィック資料・キット 334 点を所蔵し、延べ 17,242 人（24年度：18,798 人）の来館利用者に貸出、レファレンス、文献複写サービスを行った。（25年度の利用者数目標値：研修参加者数 26,803 人・日×1/2=13,402 人）。

・関西国際センター

研修参加者支援のために、図書資料 49,690 冊、視聴覚資料 1,617 点、雑誌 256 タイトル、新聞・雑誌・百科事典等のオンラインデータベース 5 タイトル、マイクロ資料 1,387 点等を所蔵し、延べ 18,698 人（24年度：17,341 人）の来館利用者に、貸出、レファレンス、文献複写サービスを行った。（25年度の利用者数目標値：研修参加者数 31,107 人・日×1/2=15,554 人）